

Ⅱ. 出生からの子牛の飼養管理

1. 出生直後の飼養管理.....

☆ポイント☆

- 反芻動物としての基礎を確立するための重要な時期
- 質の良い初乳を十分に飲ませて免疫力を高めること
- 代用乳と人工乳を適切に給与することが健康に発育させる条件
- 人工乳の摂取不足は第一胃の発育・発達に大きなマイナス

1) 出生時の管理

産まれた子牛が呼吸していないときは、呼吸するように刺激する必要がある。

鼻腔のまわりの粘膜を取り除き気道を確保した上で、息を吹き込む、鼻腔を指やワラで刺激する、冷水をかけ呼吸反射を起こすといった方法で刺激することが必要である。

通常であれば母牛が子牛を舐めて乾燥をさせる。もし母牛が舐めることができないようであれば、清潔なタオルやワラで水分や粘膜を拭き取らなければならない。この作業により、子牛の生理機能を刺激・亢進させると同時に体温の低下を防止することができるようになる。へその緒は出生直後はまだ口が開いており、子牛にとって病原菌の進入経路となる。臍帯は、消毒を怠ると臍帯炎になる危険性が高まるので注意が必要である。ヨードチンキ等でしっかりと中まで消毒することが大事である。

2) 健康観察

ヌレ子は、体重を測定するとともに健康検査を必ず実施する。

健康検査のポイントは、生後30分程度で正しく起立・歩行できるか、初乳を勢いよくほ乳するか、ウイルス性の奇形（頭部、頸部、天然孔等を中心に全身）がないか、である。